

みどり山防災ニュース

わがまちの防災を語ろう



三輪緑山自治会自主防災隊

発行：三輪緑山自治会自主防災隊編集委員会
三輪緑山3-1-13 ☎044-987-7495

「まちかど防災訓練」が いよいよ始まります！

自主防災隊／隊長 柏木正敏

今年10月から約3年半にわたって毎月1回「まちかど防災訓練」を行い、住民の方々の防災意識向上に繋がる活動を行っていきます。住民の方々にとって1回限りの機会となりますので、積極的にご参加下さい。

実施内容

- 第1部(10:00～11:00):
自宅近くの消火栓位置を確認したのち中央公園に集合、消防署の指導の下、スタンドパイプ式消火器の操作訓練
- 第2部(11:00～12:00):
集会所にて「防災懇談会」実施からご近所を知る、地域防災計画を知る



実施時期

- 原則、毎月第4土曜日（総会のある4月と夏祭りの8月はお休みです）

実施グループ

- 原則、隣接する2班を一グループとして該当月の対象とします（1回の対象人数は30～50軒を目安）
- 該当地域の方々へのご案内は自治会班長から伝えます
- 事前に自主防災隊から自治会班長に説明します
- 天候が悪くて出来ない時は翌月に延期し、翌月グループと同時開催を考えています



その目的

- 災害に対する「備え」と発災時の対応について知り、「在宅避難」ができるようにする
- 発災時には「向こう三軒両隣」の近助力（住民同士のコミュニケーション）が重要であり、訓練を通じてその向上を図る
- 発災時の「災害対策本部」や住民・班長・役員・自主防災隊の役割を知る

防災考察

防災と無線(2回シリーズ)

自主防災隊 情報・広報班 武 義明

災害発生時に自分がどのような状況に置かれるのかを想像するのは、意外に難しいものです。最近の天気予報はとても細かな情報を伝えてくれていて、どの時間帯にどの程度の雨が降るのかを教えてください。にもかかわらず私はかなりの確率で、「しまった」と舌打ちします。台風が来ることが分かっているのに、電車で仕事に行き、電車が止まってから後悔するのです。

今、大地震の発生がまじかに迫っていると言われていています。これは、買った宝くじが当たるかもしれない、などという不確かなものではありません。「必ず」起こるものです。問題は、自分が当事者になるか、という事と、どのような状況に自分がおかれるか、という事です。まあ、明日にでも起こるかもしれない、と研究者が言っているのですから私自身が当事者になることは間違いありません。では、どのような状況に置かれるのでしょうか？ 私は防災隊で情報・広報班という役目を担っています。

そこで、今回は情報の伝達という観点で考えてみます。

東日本大震災の時、この地区は被災地ではありませんでした。にもかかわらず、停電と通信網の混乱を体験することになりました。当時都内の高校に通う息子には携帯電話を持たせておりましたが、インターネットから情報を集めようとして携帯のバッテリーを数時間で使い切ってしまいました。思慮の足りない愚か者、と言わざるを得ませんが、気づいた時には後の祭りです。バッテリーを温存していた私との連絡は以後、公衆電話による限られたものになってしまいました。もっとも、当時発信制限がかかっており、携帯電話が利用できてもメールによるやりとり、それもかなり遅延して相手に届くという状態でしたので、携帯電話での連絡はとても心もとない物でした。

今はスマートフォンの時代。予備のバッテリーを携帯されている方も多いのではないのでしょうか？しかし、想像してみてください。震災で発電所と送電設備が破壊され、電力復旧のめどが立たなくなる状況を。今の設備はほとんどが電力を必要としています。家の電話機もコンセントにつないで使うタイプですし、携帯電話やスマホの中継基地は停電した状態で3時間から24時間、最新の設備でも3日程度しか運用できません。しかも、発信制限がかけられてしまいますから、実際にはほとんど利用できないのです。

次回は、そのような状況で自治体が利用できる連絡方法について考察します。



ご参考

◎三輪緑山地区の公衆電話設置場所

- 1.グルメシティ店舗入り口脇
- 2.鶴ヶ丘ガーデンホスピタル敷地入り口(三輪緑山二丁目バス停)脇

◎停電の時でも旧黒電話機は通話できます。
(TA等使用の場合は専用電源が必要)

歴史に学ぶ防災知識

江戸時代の大きな地震

西暦	元号	地震	場所	規模・影響
1605年	慶長	慶長大地震	本州南岸沖	M8 揺れは小さいが津波の被害大
1611年		会津地震	福島直下	M6.9 震度6強～7
		慶長三陸地震	三陸沖	M8.1 津波の被害大
1615年		江戸地震	関東地方	M6～
1633年	寛永	寛永小田原地震(相模・駿河・伊豆地震)	神奈川県西	M7.1 津波・山崩れあり
1644年		羽後本荘地震	秋田県	M6.5 津波あり
1649年		武蔵・下野地震(川越地震)	埼玉県	M7.1
1662年	寛文	近江山城(近江若狭)地震	京都・滋賀県	M7.4～ 液状化現象あり
		外所地震	宮崎県日向灘沖	M7.6 津波あり
1665年		越後高田地震	新潟県上越市	M6.4 死者約1500人
1677年	延宝	延宝房総沖地震	房総半島東方沖	M8.0 津波の被害大
1694年	元禄	能代地震	秋田県能代断層	M7.0 山崩れあり
1703年		元禄地震	房総半島南端	M8.1 火災・液状化あり。津波の被害大。死者2,300人以上
1704年	宝永	岩館地震	秋田県	M7.0
1707年		宝永地震	東海・東南海・南海(駿河湾～四国沖)	M8.4～8.749日後に富士山の噴火(歴史上最後の富士山噴火) 関東から九州に及ぶ大津波
1741年	元文	渡島大島津波	北海道	地震というより噴火による山体の崩壊が原因か。死者約2千人
1751年	寛延	高田地震(越後・越中地震)	新潟県上越市	M7.0～7.4 海岸段丘の地滑りあり。死者約1500人
1766年	明和	明和津軽地震	青森陸部断層?	M6.9～ 津波あり。死者約1500人
1771年		八重山地震	沖縄県八重山列島近海	M7.4～8.0 大津波による死者1万人以上
1792年	寛政	島原大変肥後迷惑	長崎県雲仙岳	M6.4 火山性地震・山体崩壊・津波。死者約15,000人
1793年		寛政地震	宮城県沖	M8.0～8.4
1804年	文化	象潟(きさかた)地震	秋田県	M7.1 地盤隆起と津波。死者500～550人
1828年	文政	越後三条地震	新潟県三条市直下	M6.9 震度7相当。液状化現象あり。死者約1600人
1833年	天保	庄内沖地震	山形県沖	M7.4 大津波発生
1843年		十勝沖地震		M8.0 津波あり
1847年	弘化	善光寺地震	長野直下	M7.4 死者数約1万人。河道閉塞により洪水が発生。
1853年	嘉永	嘉永小田原地震	神奈川県西	M6.7
1854年	安政	安政東海地震・安政南海地震	東海・東南海沖→南海沖	2日連続の大地震。共にM8.4。津波あり。共に死者数千人
1855年		安政江戸地震(安政の大地震)	江戸直下	M7.0～7.1 震度6以上。死者4,300人以上。液状化現象あり

鯰絵(なまずえ)

現在は地震発生の機構が解明されているが、それが分からなかった江戸時代、「身を守るための護符として」、あるいは「不安を取り除くためのまじないとして」このようなものが流行した時があった。

安政2年10月2日(1855)の午後10時頃、直下型といわれる大地震が江戸の町を襲った。当時は、地震を引起こすのは地中にある大鯰であり、平常時は、鹿島大明神が要石でこの大鯰を押さえていると信じられていた。安政2年の大地震が起こった10月は、日本中の神様が出雲大社に集まり自分の社を留守にするため、神のいない月＝神無月とも呼ばれる。江戸の人々は、地震の原因について、神無月で鹿島大明神が出雲に向いたため留守中に鯰が暴れた、と考えたのである。

安政2年の大地震の直後、鯰を配した「鯰絵」と呼ばれる浮世絵が短期間に大量に出版された。公に認可された出版物ではないものの(認可のしるしである改印が一切見られない)、その種類は400以上といわれ、先を争って制作された様子がわかる。「鯰絵」は、先に記した地震と鯰の俗信を元に描かれたのであるが、様々なモチーフがあり、地震の被害の様子や地震後の世相について記したものも見られる。現代に生きる我々には、地震の被害に遭った当時の人々が、「鯰絵」に何を求めたのかは判らない。しかし、そこから何か不思議なエネルギーのようなものを、感じ取ることができるだろう。

